

都立動物園・水族園合同企画

身近な水辺
保全講演会
第 1 回

2019.2.23 Sat.
13:30-16:00

イモリやカエル、
メダカやタナゴなど、
かつては身近にいた
水辺の生き物の多くが
数を減らしています。
なぜ数を減らしているのでしょうか？
守っていくには
どうすればよいのでしょうか？

かさいりんかいすいぞくえん



2019.2.23 土 13:30-16:00

場所：葛西臨海水族園 本館 2 階 レクチャールーム

対象：年齢制限なし。中学生が理解できる内容です。

定員：80 名

応募方法

Eメールでお申し込みください。
先着順で受付、
定員になり次第締め切ります。

【宛先】 mizube@tokyo-zoo.net

【件名】 水辺講演会

【本文】 参加希望者全員の氏名（ふりがな）・年齢、
代表者の住所・電話番号を記入。

●お申し込みの際は、@tokyo-zoo.net からのEメールを受信できるよう、迷惑メールフィルターやメールソフトを設定してください。●定員に達した場合は、ホームページ（<http://www.tokyo-zoo.net/zoo/kasai/>）でお知らせします。

身近な水辺保全講演会 第2回

2019.3.16 土

井の頭自然文化園にて開催予定。

詳細は、井の頭自然文化園のホームページをご覧ください。

都立動物園・水族園が行っている 両生類の保全活動

／中沢純一（葛西臨海水族園 飼育展示課 飼育展示係）

東京のヒキガエルとオタマジャクシの社会

／長谷和子（総合研究大学院大学 先端科学研究科 生命共生体進化学専攻）

日本産ヒキガエルを中心に、遺伝的な多様性、行動、生態について研究しています。その中から3つをご紹介します。1つめは、東日本亜種のアズマヒキガエルと、西日本亜種のニホンヒキガエルの交雑についてです。東京都にはもともとアズマヒキガエルがすんでいましたが、東京のヒキガエルの遺伝子を調べた結果、都心を中心にニホンヒキガエルの遺伝子に置きかわっていることがわかりました。2つめは、1つの水場にたくさんの個体が集まる「カエル合戦」で有名なヒキガエルの繁殖生態についてです。どんなカップルが成立しやすいのでしょうか？最後に、ヒキガエルのオタマジャクシが池で群れている理由やその認識能力について、最近明らかになったヤマアカガエルのオタマジャクシの興味深い行動習性とともにお話します。



プロフィール 1976年東京生まれ。2011年東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了、2015年同博士後期課程修了。2016年から日本学術振興会特別研究員。カエルの研究を始めたきっかけは、卒業研究で自宅の池に毎年産卵に来るヒキガエルについて調べたこと。「ニホンヒキガエルについての遺伝的多様性と社会行動」の研究で学位を取得。現在はヒキガエルやアカガエルの幼生を対象に社会性と血縁認識について研究している。

■開園時間：午前9時30分～午後5時（入園は4時まで）
■休園日：毎週水曜日（祝日や都民の日に当たるときは翌日）
■入園料：一般700円／65歳以上350円／中学生250円
＊小学生以下、都内在住・在学の中学生は無料
■お問合せ：東京都江戸川区臨海町 6-2-3 03-3869-5152
■HP： <http://www.tokyo-zoo.net/kasai/>

